

11. (1) 監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで1回の指示、伝達を認める。(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない。)
- (2) 守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
- (3) 野手が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。指示、伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。
12. 1イニングで同一の投手に対して指示、伝達が2回目となれば、自動的に投手の交代となる。
その投手は他の守備位置につくことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。
ただし、新しいイニング入れば、再び投手として登板することができる。
13. 監督、コーチおよび選手は、審判のジャッジに対して、絶対に服従し、抗議することを厳禁する。
ただし、規則上の疑義申し出については、監督または問題の当事者のみが審判に説明を求めることができる。
この場合「3分以内」に規制する。
14. 監督またはコーチが投手に指示などをするときは、マウンドのところで行うこと。(ベンチからは駆け足で)
15. 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
16. ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。
また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
17. 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
18. 小学生の部は、攻撃側チームの監督、コーチに限りコーチスボックス内でベースコーチを務めてもよい。
この場合、必ず両耳付きヘルメットを着用すること。
19. 各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具(マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロー
トガード、ファールカップ)2組を備えること。
20. 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
- 21.グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
22. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
23. 光化学スモッグ発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
24. 試合前のシートノックは最終日のみ5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは、球場責任者が決定するものとする。(シートノックは、登録選手25名可とする)
25. 申告敬遠、敬遠の際に申告すれば投球しなくてもよい。

タイブレーク実施細則

1. 特別規則

- (イ) 中学生の部は最終日のみ延長8回あるいは試合開始から2時間を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は10回あるいは2時間20分を超えて(いずれか早い方)、小学生の部は延長7回あるいは試合開始から1時間40分を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は9回あるいは2時間00分を超えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
- (ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- (ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- (ニ) この場合の代打および代走は認められる。

2. チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

(イ) 投手記録

- ・ 規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
- ・ 完全試合は認めない。
- ・ 無安打、無得点試合は認める。

(ロ) 打撃成績

- ・ 規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
- ・ 規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。